

光受寺通信

NO.195

B7.4.1 発行
発行元 光受寺



「朝顔に釣瓶（つるべ）とられてもらひ（い）水」

この句は加賀の千代女といわれ、後に52歳で剃髪（ていはつ）し、法名 釋尼素園の有名な句ですが、北陸の吉崎御坊（蓮如の里）には、こんな句碑が建てられています。

「うつむいた処（ところ）が台（うてな）や葎（すみれ）草」

この句は60歳の春に吉崎御坊に参拝した時の句といわれていますが、参道の片隅にひっそりと咲いていたすみれ草が目が留まったのでしよう。そして、それは人間から見ればきつと条件の悪い場所に花を咲かせていたにちがひありません。

厳しい人生を歩んできた千代女の目には、場所を選ばず、どんなに理不尽な場所であろうとも、ただただこうべを垂れて美しく咲いているすみれ草の姿に、ハットとわが身を振りかえさせられ、この句が生まれたのだと思われまます。

私たちは、自分の置かれた環境や居場所に不平不満を募らせ、居場所を見失いさまようことも多いものです。

今（こ）を生きようと眞の居場所を見つけた時、そこが台となるのです。台とは仏様の蓮台（蓮の花の形をした仏像の台座）のことですが、千代女の目には、今（こ）を喜んで咲いているすみれ草が台（うてな）に立つ仏様の姿に見えたのかもしれない。

春季永代経勤まる

3月20日（春分の日）

天候不順で寒暖の差も激しく、花粉も多く飛散して体調を崩し気味となるこの春でしたが、40数名のご参拝をいただくことができ、誠にありがたいことでした。

法話は午前が住職、午後は若院が務めさせていただきました。今回は住職の法話の内容を一部ご紹介させていただきたいと思ひます。かつて自坊の永代経において「妙好人」についてお話をしたことがあるのですが、今回もおなじ妙好人であった因幡の源左さんを主に紹介させていただきました。

それには大切な理由がありました。それは源左さん19歳の

年に父親を亡くしましたが、その直前の遺言は「何か困ったことがあったら、親さまを頼れ」ということでした。しかし親さまとは何のことかさっぱり理解ができず、お手次のお寺の住職に尋ね「それは、阿弥陀様（こと）や」と教えられましたが、やはり源左さんには「阿弥陀様」「浄土」といっても実体感がなく、夢のような話にしか思えなかつたのです。それはちょうど私たちが抱いている思ひとも似ているようにも思われ、源左さんを紹介した次第なのです。

さてその後、源左さんは、父の遺言の意味を何とか理解したいと寸暇を惜しんで二十年ほどお聴聞を続けましたが、やはりストーンと納得できなかったようです。源左さん、この時四十歳頃でした。ある日の早朝、日課の牛の草刈りに出かけ、三束の束を持ち帰るために、2束を牛に、一束は自分が背負つての帰途につきましたが、突然に腹痛を起し、我慢ができずに自分が背負つていた一束を止むを得ずに牛に任せたといいまます。そして、肩の荷が下りたその瞬間に「ふいっと、わからせてもらいましたわいな、わからしてもらいましたわいな」と大いに感激し、そのことを住職にも報告し、大変に喜んでいただけたそうです。長年問い続けた疑問がこの時一瞬に晴れたのです。

今（こ）まで俺（おれ）が俺（おれ）がで、辛いことも悲しいこともすべて自分が背負つて生きてきた源左さん。「我（われ）に任せよ」という阿弥陀さんの呼び声が源左さんに届けられた瞬間だったのでしよう。その後は「ようこそ、ようこそ」を口癖に、絶対他力の世界に生きられた源左さんの話でした。

詳しくは「因幡の源左」ネットで



午後の若院の法話風景。

今月の掲示板

いづくにならば
念仏もつねをべし

この言葉は蓮如上人が、上人を慕う道徳が、お年始の挨拶に来た時に語った「道徳はいづくになるぞ。道徳、念仏もつねをべし」の言葉です。蓮如のこの言葉は、いづくになっても決して念仏を忘れてはならないという願いが込められているのです。何を抛りごころとして生きているのか、改めて問っているのだと思います。



写真で振り返る今年の春の催し

今年は飛龍梅の状態が極めてよくなかったことから、ご来寺いただいた多くの方に残念な思いをさせてしまったようです。

今年の飛龍梅の姿です。

「ご覧のように上部の半分ほどが枯れてしまっているような感じですが、回復は極めてむずかしいように思えますが、生きている部分を活かしながら、全体の形を整えていきたいと思っています。

境内全体の風景はこんな感じでしたが、どうしても飛龍梅の存在がないと、さみしいものとなってしまいました。

それでも、「思いのまま」という梅の品種や、椿の仲間である小さな花の「胡蝶侘助」現天皇のご成婚記念に命名された「プリンセス雅子」という椿などが境内に彩を添えてくれました。



その他、庫裡、およびミニギャラリー「聴風庵」においては古代びなや、つりびな、雛の書画展などを楽しんでいただくことができたと思っています。

享保びなは約350年前の古いものです。

古今びなは今年初のお披露目となりました。

年代によってお顔の表情が違つのは興味深いものです。

来寺者の一番人気はこの雛たちだったように思います。



吊りびな、繭びな、木彫りのひな等
光受寺所蔵の総展示



享保びな



古今びな

来寺者の一番人気はこの雛たちだったように思います。

また本堂においては第35回「秀瑤書院展」、「ガーネット」によるコーラスなどを開催いたしました。

坊守も今回が最後の書展にすると行って大いに張り切っていたようです。

コーラスには、多くの方にお越しいただき、満堂の大盛況でした。童謡なども披露され、参加者の方々も一緒に歌われ大いに楽しんでおられました。

お寺を開放し、皆さんに楽しんでいただけることを喜んでいる寺族一同なのです。



お知らせ

○ 今月の学習会

4月19日(土) 2時より

○ 今月の「お寺サロン」

4月24日(木) 廣専寺

1時半～2時半